

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 20 号:2012 年 2 月—2012 年 3 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2011 年のウズベキスタン経済向け投資総額は 108 億ドルを上回った

これは 2010 年比 11.2% の増加である。GDP に占める投資の比率は 23.9% である。投資の伸び率が高かったのは自動車、化学製品、電気技術製品、繊維製品、製薬製品であった。投資のうち外国資本による対内投資が 27% を占め、その大部分は直接投資であった。2012 年は外国資本による対内投資と融資が 16% 増加して 33 億ドルを上回り、そのうち直接投資は 23 億ドルを超える見込みである。

ウズベキスタンが CIS 自由貿易圏協定に加盟する可能性がある

CIS 経済理事会は、ウズベキスタンが CIS 自由貿易圏協定に加盟することについて承認を終えており、この問題を加盟国政府首脳会議の定期会合に送って同会合で検討してもらおうことにしている。昨年 10 月にサンクトペテルブルグで開かれた CIS 諸国政府首脳会議の会合の結果に基づいて、次の各国がこの協定に調印した：ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、カザフスタン、アルメニア、キルギス、モルドバおよびタジキスタン。このときアゼルバイジャン、トルクメニスタンおよびウズベキスタンの各首脳は 2011 年末までには協定に加盟すると約束した経緯がある。

二国間関係

日本で生産されたハイテク医療設備を供与する目的で、日本政府はウズベキスタンに 3 億円の無償資金協力を行った

無償資金は、内視鏡・ビデオシステム（ビデオシステムと一体になった胃鏡および大腸内視鏡）8 セット、総額 260 万ドル、およびデジタル X 線撮影装置 18 台、総額 130 万ドル、の購入に向けられる。

日本政府の政府開発援助（ODA）プログラムの枠内で、JICA が「カルシーテルメズ鉄道区間電化プロジェクト」の実施に向けて 2 億 2100 万ドルの借款を供与へ

このプロジェクトでは、325km に及ぶ鉄道区間で鉄道線の電化、遠隔通信装置の近代化、電気機関車修理設備の更新、各種機械および装置の購入を行うことになっている。これらすべてを実施することによりこの区間の操業効率を引き上げ、このルートを通る列車の積載能力を引き上げ、エネルギー消費を節約することが可能となる。今日まで ODA としてウズベキスタンに供与された資金の総額は 12 億ドルとなっており、そのうち無償援助は 1 億 8,000 万ドルである。

国営持株会社ウズベクネフチェガスの幹部がハートリー・ブット (Hartly But) 共同議長を団長とするウズベキスタン - 英国商工会議代表団と会談

ウズベクネフチェガスの広報部の発表によれば、次の分野で活動する英国の 10 社の代表もまた代表団の団員として同社を訪問した：産業施設建設、道路建設、通信、機械設備製造、石油・ガス精製技術、保険、エンジニアリング、人材養成。互恵的な対話を進めるための「接点」は少なくないと会談の参加者たちは指摘した。今後、一連の分野でより詳細な情報の交換を行うことになった。

投資政策

ウズベキスタン政府がアジア開発銀行 (ADB) と総額 5 億 800 万ドルに及ぶ 4 つの融資協定を締結

第 1 の融資協定は総額 1 億ドルに及び、マラカンド - カルシ鉄道区間（この鉄道区間は NATO のアフガニスタン向け貨物の中継輸送に使われている）の電化に向けられる。総額が 2 億ドルとなる第 2 の融資協定では農村地域の住宅建設の分野でいくつかの事業を行うことが計画されている。もうひとつの融資協定は総額が 5, 800 万ドルとなり、アンジジャン市の下水道網の改修、ジザフ州ザファロボド (Zafarovod) 地区およびアルナサイ (Arnasay) 地区、ならびにカラカルパクスタン自治共和国とホラズム州の農村の上水道施設整備が予定されている。最後の融資協定は総額が 1 億 5, 000 万ドルに及び、電力消費量監視・計算自動化システムの導入を見込んでいる。また、国際太陽エネルギー研究所の設立に関する覚書が取り交わされ、この中で太陽エネルギー利用促進事業の実施に向けて ADB から 2 億ドルが供与されることが見込まれている。

ウズベキスタンは水力発電所の近代化・改修に関する 2 つの大型プロジェクトにイスラム開発銀行の参画を求めることにしている

2012 年～2015 年にファルハド (Farkhad) 水力発電所と下ボズス (Lower Bozsu) カスカード第 14 水力発電所の近代化・改修プロジェクトを実施することになっている。このプロジェクトの費用は 4800 万ドル余りである。イスラム開発銀行が参画を求められている 2 つ目の事業はタシケント・カスカード第 9 水力発電所とカディリヤ (Kadyrya) ・カスカードの第 3 水力発電所の近代化・改修プロジェクトであり、その費用は 4050 万ドルとなる。ウズベキスタンでは水力発電所（の発電量）は全発電所のほぼ 11.5% を占める。

韓国輸出入銀行がウズベキスタンにおける韓国社のガスプロジェクトの実施に向け 10 億ドルを供与する見込み

Korea Gas と Honam Petrochemical を含む韓国の 8 社は現在、スルギル鉱床開発およびウスチュルト・ガス化学コンビナートの建設に関するウズベキスタンのガスプロジェクトに参加している。韓国輸出入銀行は、総額が 40 億ドルに及ぶこのプロジェクトの資金調達に参加することになっている。このプロジェクトの原料基盤は、スルギル、東ベルダフ-ウチサイ (Eastern Berdakh-Uchsai) および北ベルダフの各鉱床である。このうちスルギル鉱床が最も大きく、その埋蔵量は天然ガス約 1, 200 億 m³ である。

ウズベキスタン政府が、海外諸国において年次ベースで国民展示会-見本市を開催することを決定

「海外における展示会-見本市活動の今後の発展にかかわる措置に関する」政府決定は、海外で行われるウズベキスタンの国民展示会-見本市および国際展示会-見本市への国内事業体の参加を増やすことを狙いとしている。海外における展示会-見本市活動の企画と実行に責任を持つ機関として対外経済関係・投資・貿易省が指定された。

エネルギー・セクター

国営株式会社ウズベクエネルギーは今年、6億9,400万ドルを上回る投資を行う計画

このうち3億6060万ドルが新規建設に、3億3,410万ドルが近代化および改修に向けられる。ウズベクエネルギー自体が自己資金3億140万ドルを投資するほか、ウズベキスタン復興開発基金が1億9900万ドルを供与し、外国資本による直接投資と融資が1870万ドル、その他の資金源が1億7,550万ドルになる見通しである。ウズベクエネルギーは今年、全体として28のプロジェクトを実施し、その総額は38億ドルを上回ることになる。このうちタリマルジャン (Talimardzhan) 火力発電所の増強とノボ-アングレン火力発電所の各発電ユニットの通年石炭焚きへの切り換えが最も規模の大きいプロジェクトになる。

ウズベキスタンは褐炭を原料にしたディーゼル燃料合成工場を建設する予定

国営株式会社ウズベクエネルギーは、アングレン褐炭鉱床のアパルタク (Apartak) 露天採掘場の褐炭を代替原料として使用するディーゼル燃料合成工場の建設の問題に取り組んでいる。現在同社は外国側パートナーの選定を進めている。南アフリカの Clean Coal Technology 社、ドイツの Alphakat Avermann 社、Caterpillar 社および Takraf 社がパートナーの候補に挙がっている。外国パートナーを選んだ後、ウズベクエネルギーはパートナーとともに事業の予備的な FS (フィジビリティスタディ) を行う計画である。暫定的なデータによれば、工場の設計処理能力は褐炭70万トンとなる。原料となる褐炭の生産高は年間185万トンまで引き上げられることになる。建設プロジェクトの実施期間は2012年~2015年、費用総額は6億4100万ドルと見積もられている。ウズベキスタンでは探鉱済みの石炭の埋蔵量が19億トンであり、そのうち18億5,000万トンが褐炭である。

ウズベキスタンでは昨年、7つの石油およびガスの鉱床が発見された。

これらの鉱床とは、シェルケント (Sherkent)、サギルタウ (Sagirtau)、ダラフトリ (Darakhtli) オイジン (Oidin)、ルボイイ (Ruboii)、カラテラ (Karatela) の各鉱床およびダスマナガ (Dasmanaga) 高粘性油・天然ビチューメン (アスファルト) 鉱床である。そのほか21カ所の地質構造で試掘の準備が整っている。また、10カ所のサイトで高深度試掘が開始され、36の試掘井の建設が完了し、13の坑井が試験生産に引き渡された。現在、石油ガス分野でウズベキスタンに協力している外国社は次の通り：ルクオイル、ガスピロム (ロシア)、Petronas Carigali Overseas (マレーシア)、合弁ギッサルネフチェガス (Gissarneftegaz)、UGRR Uzgazoil、有限会社 Kossor

Operating Company (ベトナム)、KNOC, KOGAS, 有限会社 Daewoo Energy Central Asia (韓国)、CNPC Silk Road Group LLC (中国) 等々。

世界銀行がウズベキスタンのエネルギー産業分野の諸プロジェクトに 1 億 8000 万ドルの融資を供与

これらのプロジェクトの目的は、タシケント市、タシケント州、シルダリヤ州の 3 つの地域配電会社の商業的損失（盗電、メーター表示と支払われた電力料金の不一致など電力消費監視面での原因による損失—訳注）を減らすことにある。プロジェクトの一環として現代的な電力メーター 120 万個を設置する予定である。プロジェクトのコンセプトは国営株式会社ウズベクエネルギー、財務省およびアジア銀行の密接な協力の下で策定された。

自動車・輸送セクター

ウズベキスタンの自動車工業部門では 2012 年に 2 億 5,700 万ドルの投資が行われる見込み

この指標は 2012 年ウズベキスタン投資プログラムに織り込まれている。この投資のうち大部分、1 億 9,270 万ドルは株式会社ウズアフトサノアトの自己資金であり、1,940 万ドルは外国資本による直接投資と融資、4,560 万ドルはその他の資金源による。これらのプロジェクトの大部分は、GM Uzbekistan が生産する自動車のいくつかの新モデルの各種構成品の生産体制を整備することを狙いとしている。

その他のセクター

ウズベキスタン政府が「2012 年完成品、組立用構成品および材料生産現地化促進プログラム」を承認

この文書の枠内で今年、ウズベキスタンの諸企業は 832 の製品現地化プロジェクトを実施する。これらのプロジェクトの早期実施と効果の向上を図るために諸企業に一連の優遇・特惠措置が供与された。例えば、これらの企業は、現地化される製品を生産する際に技術工程で使用するために輸入する技術設備およびそのスペアパーツ、ならびに共和国で生産されない部品については、関税その他の通関時納付金の支払いを免除された。そのほかこれらの企業は、現地化プロジェクトに基づいて生産された製品にかかる利潤税と統一支払い税、製品生産の現地化のために使用される生産用固定資産にかかる資産税をいずれも免除される。現地化プロジェクトを実施する主な企業は次の通り：国営持株会社ウズベクネフチェガス（約 50 のプロジェクト）、株式会社ウズアフトサノアト（28）、ウズエレテフサノアト（Uzeltexsanoat）連合（31）、ナヴォイとアルマリク（Olmaliq）採鉱金属製造コンビナート（それぞれ 25 と 14）。

ウズベキスタンの製薬工業分野では 2012 年、25 のプロジェクトが新たに実施される予定

これらのプロジェクトのうち、需要が高く、現在外国からわが国に輸入されている医薬品の生産にかかわるプロジェクトが優先するとされている。今日ウズベキスタンでは 126 の製薬会社が活動しており、その中の 80 社が国営株式会社ウズファルムプロ

ム (Uzfarprom) グループに属する。ウズファルムプロムは医薬品と医療用品の 82% を生産している。

国営株式会社ウズキミヨサノアト (Uzkimiyosanoat) グループの各企業は 2012 年、わが国政府の保証の元に総額 6,000 万ドルの対内投資を誘致する予定

「2012 年投資プログラム」によると、資金は中国輸出入銀行の融資の形で農工分野に誘致される。同銀行は 2000 万ドルを工場の建設のために供与する。計画ではこの工場ですべて 2014 年までに延長 10 万メートルのコンベアーベルト、20 万本の農業機械用タイヤおよび 150 万本の自動車用タイヤを生産することになっている。さらに、デフカナバド (Dekhkanabad) カリ肥料工場の近代化と改修に 4,000 万ドルが供与される。これによって 2013 年までにカリ肥料の生産高を 60 万トンまで引き上げることが可能となる。

株式会社ウズベクテレコムとインド社 Olive Telecommunication Pvt. Ltd. がナヴォイ自由産業経済特区における合弁企業 Olive Telecom 設立文書を調印

このプロジェクトの実施第一段階では携帯電話、固定電話、CDMA-450 スタンドアロンのモデム、さらにインターネット・デバイスの生産体制を築く。このプロジェクトの一環として生産の現地化が見込まれており、生産体制を築く中で現地化率を徐々に引き上げることになっている。

ナヴォイ採鉱金属製造コンビナートが、金生産量を 26.7% 余り引き上げることを可能とするいくつかの投資プログラムを完遂

とりわけ、北部鉱山管理区域の第 3 湿式精錬所では処理難度の高い硫化鉱の生化学的酸化工程第 2 段階が操業を開始した。南部鉱山管理区域の第 4 湿式精錬所では粒の細かい金の重力抽出工程の生産体制が整い、フル生産体制に入った。ナヴォイ採鉱金属製造コンビナートは 2011 年、純金にかかわる国家発注を 100.1% 実行するとともに生産される製品の原価を 2.7% 下げることに成功した。